

備前市事務事業評価表

事務事業名	ため池整備事業		コード	01-03-02-01
			担当課・係	農林水産課 耕地治山係
			担当者	小川 勝巳
			電話	0869-64-1830
事業実施期間				
総合計画 事業（政策）体系	大項目（基本目標）	安全で快適に暮らせるまちづくり		
	中項目（基本施策）	災害に強いまちづくり		
	小項目（施策）	ため池・治山対策		

事業について		
目的 (何のために)	老朽化したため池を改修し、農業用水の効率的な管理を図るとともに、堤体決壊による下流域への災害防止に資する。	
対象 (誰・何を対象に)	ため池の受益農業者及び下流域の被災対象者	
内容	岡山県が事業主体となり行う老朽化したため池堤体や取水・排水施設等の改修に対して、事業費の一部負担や地元調整を行う。	

事業の結果			
実施項目	17年度	18年度	
	回数など (単位)	回数など (単位)	回数など (単位)
県営ため池整備事業	136 ha (1)箇所	0 ha (0)箇所	

事業費 (単位：千円)	事業費		財源		事業費		財源	
	直接事業費	8,627	国庫補助金等	0	直接事業費	0	国庫補助金等	0
	人件費	827	受益者負担	862	人件費	828	受益者負担	828
		市債	7,700			市債	0	
	合計	9,454	一般財源等	892	合計	828	一般財源等	828

必要人員	0.10	人	0.07	人
結果指標名	県営ため池整備事業		県営ため池整備事業	
結果指標量	13.6	0.0		
単位	ha	ha		
対前年比	-	0.00%		
活動にかかるコスト	9,454,000	828,000	円	円
単位当たりコスト①	695,147	#DIV/0!	円	円

事業の成果			
どのような成果を得ようとしているか	老朽化したため池を改修し、農業用水の効率化を図ると共に、堤体決壊による下流域への災害防止に資する。		
成果指標名	ため池整備率	式又は説明	ため池整備率=改修済ため池/全ため池 ※受益面積2ha以上の池のみ対象
	17年度	18年度	
成果指標量	31.9%	31.9%	
対前年比	-	100.00%	0.00%
到達目標値	34.3%	到達目標年度	平成27年度

事業の目的、対象、内容を考えながら目的の妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		(平成18年度事業)	
目的・対象・内容の妥当性評価	目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 関係法令等で目的が定められており妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化しつつある <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である 関係法令等： 土地改良法	妥当性評価<A~E> B
	対象の妥当性	<input type="checkbox"/> 受益者の拡大を検討する余地がある <input type="checkbox"/> 受益者の縮小を検討する余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 現在の対象者は妥当である	課題認識 農業経営基盤の安定化のため、また堤体の決壊による災害防止のため老朽化したため池の改修は必須であるが、経年により混雑化が進み被災対象者が、農家だけでなく非農家も増えてきており、防災面での意義が大きくなりつつある。
	市民ニーズの妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請のある事業である <input checked="" type="checkbox"/> 市民に概ね好評な事業である <input type="checkbox"/> 公共秩序の維持、行政の適正運営に必要な事業である	
市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 国・県又は関係法令で定められている事業である <input type="checkbox"/> 民間に類似サービスがある <input checked="" type="checkbox"/> 本市が関与すべき事業である <input checked="" type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の影響は大きい		
効率性の評価	コストの効率化	<input checked="" type="checkbox"/> 単位当たりコストは増加傾向にある <input type="checkbox"/> コスト削減の努力をしている <input type="checkbox"/> できる限り民間活力を利用している <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担額は適正である	効率性評価<A~E> B
	手段の最適化	<input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で確認・見直しを行っている <input type="checkbox"/> 他に有効な代替手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 事業は他部署と密接な連絡調整を行っている	課題認識 県営事業であるため、事業の手段や工事コストなどには関与できないが、ため池の事業は現場条件により単位あたりコストが大きく変動するため単純に比較は出来ない。市では、工事に伴い単独に必要な盛土材料の確保等地元調整を行うが、近年は現場近傍での確保が困難になっており、他工法では工事費が高くなる傾向にあるため検討課題といえる。
	職場の効率化	<input type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている <input type="checkbox"/> 事業に関するOJT（職場研修）は行われている <input type="checkbox"/> 事業の進行管理を定期的に行っている <input type="checkbox"/> 事業実施について職員の意見・要望が反映されやすい	
目的達成度	<input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している	有効性評価<A~E> B	
有効性の評価	成果向上の可能性	<input type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである <input type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある	課題認識 改修したため池については、用水管理の効率化や災害防止など事業の目的は達成されているが、未改修の池も多く残っている。今後の改修計画にあたっては、負担金・用地等地元協力体制が整わなければ事業化できないため、地元役員の協力を得、地元調整を強力に推進する必要がある。
	市民参画度	<input checked="" type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している <input checked="" type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている	

平成19年度の状況		説明 農地農村整備事業管理計画により、岡山県が平成21年度から大倉池(関谷)、23年度から大谷中池(福田)の整備を予定しており、備前市としては、事業の実現に向け現地調査や地元の調整を進めていく。
<input type="checkbox"/> 重点化している <input type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している <input checked="" type="checkbox"/> 見直し継続している <input type="checkbox"/> 事業を縮小している	<input type="checkbox"/> 休止している <input type="checkbox"/> 他の事業と統合している <input type="checkbox"/> 平成18年度で廃止・完了	
目標値	結果指標量① 設定なし	

結果指標量②	設定なし
総合評価	

未改修のため池が多く残っており今後も本事業による改修を推進していく必要があるが、高齢化等農業者の減少に伴いため池も受益者が減少する一方、非農家が増えるなど情勢の変化により、本事業の目的もかんがい施設としてだけでなく防災面での比重が高くなりつつある。こうした情勢変化により、池の管理や負担金確保など地元の協力体制がとりにくくなってきていること、盛土材料の確保が困難になりつつあり工事費が増大する恐れがあることなどから、地元の見解も反映しつつ、全面改修以外の選択も検討する余地がある。

平成20年度以降の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) <input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する <input type="checkbox"/> 他の事業と統合を検討する	<input type="checkbox"/> 平成19年度で廃止・完了
--------------	---	---	---------------------------------------

平成20年度以降の改善事項	評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
	効率性	現場条件を十分精査し、全面改修以外の手法も検討する。	毎年	事業費の削減や整備期間の短縮が図れる。
	有効性	地元協議を充分に行い、緊急度などによる優先順位付けや、速やかな協力体制の確立を図る。	毎年	危険なため池の早期改修が図れる。

評価区分  
<A~E>  
B